

小児泌尿器科

1. スタッフ（2018年4月1日現在）

科長（教授） 中井 秀郎
 医員（学内講師） 中村 繁
 医員（助教） 川合 志奈
 医員（病院助教） 日向 泰樹
 シニアレジデント 1名

2. 診療科の特徴

1) 当院小児泌尿器科の特徴

小児泌尿器科学は比較的新しい医学分野で、米国でも専門診療領域boardとして確立されたのは2006年である。我が国では、従来から泌尿器科医の一部と小児外科医の一部が、診療実務を担当してきたが、小児泌尿器科の専従スタッフを有する大学は当学のみである。当科スタッフは、成人を含む泌尿器科学の全般を修めた医師により構成され、泌尿生殖器の発生・機能・解剖への習熟が強みである。同時に、子ども医療センター医師として、成長発達過程への理解、両親への配慮などの十分な訓練を積んでいる。近年の小児医療全般の問題として、transition（慢性疾患の成人期移行医療）が取り上げられることが多いが、大学病院との相互乗り入れが可能な当科は、その領域における先駆的な医療を提供する立場にある。

全国大学における唯一の小児専門の泌尿器診療科であるため、当該診療・研究に関する指導力を国内外に発揮することも任務である。これまで、2013年7月、第22回日本小児泌尿器科学会、2014年11月、第16回アジア太平洋小児泌尿器科学会を主催した。

2) 整備状況

外来は週3日で診療枠数は適正であるが、外来看護スタッフの小児泌尿器看護の専門性をさらに向上させる必要がある。病棟枠現状4床は適正と思われる。手術枠は週1.75日で最近は適正である。入院待機患者は約30名。

当初より積極的に病病連携を構築し、診療圏は北関東のみならず、首都圏、東北に広がっている。外来診療は、慢性疾患の管理や難治性尿失禁の診療、在宅自己導尿管理などの比重が増加し、外来ケア（看護を含む）キャパシティの増大が課題である。

昨今の、関連領域の技術革新（ロボット、軟性鏡など）を小児泌尿器科領域に導入する必要がある、低侵襲技術の小児での一層の普及を目的として、大学病院泌尿器科・腎臓外科と専門医トレーニングの連携強化を図っている。このようなトレーニングの連携は、小児医療が直面するtransition（移行医療あるいは成育医療）の問題

解決とも整合性がある。

開設以来、小児泌尿器科の専門独立性が担保されてきたため、国内外で有数の小児泌尿器専門施設としての現在の地位が築かれてきたが、そのような独立性とともに、専門医教育面においては、（成人）泌尿器科・腎臓外科との連携体制が整備されているのが当科の特長である。

3) 当科対象疾患のあらまし

対象疾患の三つの柱は、乳幼児、小児の①腎・上部尿路疾患、②性腺生殖器疾患、③排泄障害、である。先天性疾患が多い。また小児疾患の成人症例は子ども医療センター外来を受診し、大学病院病棟に入院、子ども医療センターにて手術を行う。①は、有熱性尿路感染症や胎児超音波検査を契機とすることが多く、②は、出生直後から気づかれる男女外陰奇形、③は、神経因性膀胱や難治性夜尿症・尿失禁が多い。

全身性多発性奇形の一部症としての泌尿器奇形も多く認め、関連各科とのチーム診療が不可欠である。他院での治療困難例、中断例に治療を追加し完了させる任務もしばしばである。

・認定施設

日本泌尿器科学会専門医教育施設

・専門医

日本泌尿器科学会認定専門医・指導医	中井 秀郎
	中村 繁
	川合 志奈
	日向 泰樹
日本泌尿器科学会認定専門医	田辺 和也
日本小児泌尿器科学会認定医	中井 秀郎
	中村 繁
	川合 志奈
	日向 泰樹
日本がん治療認定医機構 認定医・指導医	日向 泰樹

3. 診療実績

1) 新来患者数	303人
再来患者数	4,493人
紹介率	71.1%

2) 入院患者数

198人

3) 手術実績

全手術症例数 202例
全手術件数 257件

3-1) 手術症例病名別件数

先天性水腎症	21
膀胱尿管逆流症	7
停留精巣	40
尿道下裂	29
先天性尿道狭窄	10
陰嚢水腫	3

3-2) 術式(合併症)

腎盂形成術	13
腎摘除術	1
膀胱尿管新吻合術	9
内視鏡的逆流防止術	1
精巣固定術	80
尿道下裂形成術	29
女児外陰形成術	3
内視鏡尿道切開術	13
尿失禁手術	
膀胱頸部形成術	3
膀胱頸部注入療法	3
腸管利用膀胱拡大術	2
腹壁導尿路作成術	3
腹腔鏡手術	11

4) 主な処置・検査

排尿時膀胱尿道造影、排尿機能検査(ウロダイナミクス)、膀胱尿道内視鏡検査、上部尿路機能検査、ラジオアイソトープ検査、超音波検査

5) カンファレンス

外来患者・手術患者カンファレンス(水曜)
小児画像カンファレンス(火曜)
二分脊椎カンファレンス(月1回月曜)
小児成人合同カンファレンス(月1回木曜)
栃木小児泌尿器科症例カンファレンス(TPUCC)
(不定期)

6) キャンサーボード

小児血液腫瘍グループ、小児外科、小児診断部などと合同で、年2~3回開催。

4. 2018年の目標・事業計画等

1) 腎泌尿器外科学教室としての若手人材のリクルート

大学泌尿器科医局の新体制の中で、これまで不十分であった若手人材の発掘を行う。

2) 泌尿器科専門医コースの中における小児泌尿器科臨床訓練のブラッシュアップ

若手泌尿器科医の小児泌尿器科臨床訓練要綱を作成する。

3) 次世代小児泌尿器科の萌芽を促進する。

10年先の発展につながる臨床や研究のあり方を考える。